

**「暮らす」「働く」「生きる」を支える法人に
障害がある人も普通に生活できる実践を**
理事長 竹嶋 紘

この度、6月15日の臨時理事会で理事長に選任されました。

前横山理事長の挨拶にありますように、横山理事長は50年有余にわたって障害福祉に貢献してきました。このエネルギーはとてつもなく大きく、「社会福祉法人戸田わかくさ会」をつくりあげてきました。また、このエネルギーは多くの人を引き寄せてきました。そして法人を支えていただく力となっています。このような人望と情熱のある横山理事長の後任ということで、理事長に就任することになりました。「大人(たいじん)」の前に畏敬の念を禁じません。

法人化して15年を振り返ってみますと、多難なことも少なくありませんでした。法人化前後の「わかくさ生活実習所」(わかくさの前身)で行われていた利用者との関わり方を根本から組みなおすと

いうことがありました。このような取り組みがあつて、今日の法人運営の理念・方針に繋がっています。

このことを契機に、障害者の人権を守るために、「働く」「暮らす」をしつかり支える法人にしようということ、戸田わかくさ会はスタートしました。そして2020年度からは、「働く」「暮らす」に「生きる」を加え、障害のある人たちの願いに寄り添い、そのために「汗をかく」そのような法人を目指していこうということになりました。

正直、荷が重いというのが実感です。横山理事長と同様のことはできませんが、社会福祉法人という公益性と民間ゆえの自由闊達な発想で、「暮らす」「働く」「生きる」をしつかり支えていく法人となるよう頑張りたいと思います。

引き続きご指導の程、よろしくお願い申し上げます。

閑話休題

優しくすぎない。同情しすぎない。

気休めを言わない。

村上 信夫 (元NHKアナウンサー)

相手が「自分自身で自分を助ける力を引っぱり出す」まで、余計な励ましなどせずに傍らでじつと待つこと。人を支えるというのはそういう厚い沈黙のことだと、NHKの元アナウンサーは言う。「相手の絶望に完全に寄り添うのは難しい」と思い知る人から、お気持ちちはわかります」といつた生半可な言葉など出てくるはずはないと。『うれしいことばが自分を愛える』から。(朝日新聞 2021年5月4日付け「折々のことば」 鷲田 清一 (2021))

令和3年度主要人事

令和3年度の法人各事業所の

主要人事は次のとおりです。

(令和3年7月1日現在)

【法人本部・事務】

統括施設長

竹嶋 紘

事務長

吉川 洋一

事務長補佐

小野 寺陽子

【わかくさ】

所長

浜田 知奈

サービスマネジメント責任者 鈴木直子

【ゆうゆう】

所長兼サービスマネジメント責任者 上村喜紀(新)

【かがやき】

所長兼サービスマネジメント責任者 石野恵子(新)

【グリーングラス】

管理者 吉川 洋一

副所長兼サービスマネジメント責任者 松岡沙奈江

【戸田市障害者就労支援センター】

所長 石川 丈(新)

【みなみ】

所長 酒井 正博

【わかば】

センター長 猪野 真由美

【ひかり】

センター長 高野 永

【大地】

所長 高野 永(新)

各事業所の取り組み

わかくさ

余暇活動

今年度も引き続きコロナの影響を受け、様々な行事が中止となっており、わかくさでは、行事を楽しみにされていた、利用者みなさんに「外に行けない今だから出来ること」を考え、余暇活動を提供しています。昨年度の後半には、いつも頼んでいる昼食のお弁当ではなく、自分の好みのものを購入し、みんなで楽しく食事をしたりと、少しずつですが楽しい時間が持てるようになってきました。

今年度の余暇活動第一弾として6月に、ネイルサロンを開きました。色やデコレーションを自分で選び、とても楽しそうに参加させていました。「キレイ」「見て見て」と利用者の楽しい声や弾ける笑顔で色々な人たちに指先を見せ、「かわいいですね」「キレイですね」と声をかけてもらい、



満足した様子がたくさん見られました。また、自宅に帰ってからネイルの続きを行いたい、翌日に見せたい利用者がありました。普段の日常とは違う楽しみを感じる事ができたようです。

今後は第二弾として、CAFEなるソフトクリームで、スイーツを楽しむ会を企画しています。な



んとソフトクリームのフレーバーは二十種類以上あるとのことで、今から迷ってしまいますね。

新型コロナウイルスのワクチン接種もまだ道半ばという状況ですが、わかさでは、早く以前のような日常を取り戻し、みなさんが楽しいと思える企画の一つでも多く提供できるような、これからも取り組んでいきます。(わかくさ 茅野)

ゆうゆう

楽しいイベント

一昨年からコロナが流行り始めて生活スタイルが一変しました。ゆうゆうは、変わらずフラワーセンター、駅前清掃、エコ・プランナー、ポスティング、納品など外作業を行っています。室内では朝終礼や昼食の部屋を分け、飛沫防止ボードを職員が作り感染予防をしています。

去年は、コロナ禍で暑気払いや一泊旅行など多くのイベントが中止となりました。みんな楽しみだったことを我慢して仕事を頑張っています。

このような状況でも何か楽しめる事がないか自治会で話し合いをしました。そこで、普段とは違う所で昼食を頼んで楽しい昼休みを過ごそうと決まりました。6月に初めて、オリジン弁当で6種類の中から好きなお弁当を頼みました。お弁当が来ると待ちきれなくて、集まり自分お弁当が渡されるのを待っている人もいました。今も感染予防のため部屋は分かれてはありましたが、みんなでおいしく食べました。

次回は、ゆうゆうでやきそば・フランク・かき氷を作ってミニ夏祭りを行いたいと考えています。

昨年度はコロナ禍の為、イベントもなくなりドラ焼き販売は大打撃を受けました。興味がある方は是非ご連絡ください！

(ゆうゆう 田口)



かがやき

私たちが今できること

コロナ禍が続く中、私たちはいろいろな我慢や制約を強いられてきました。昨年度は忘年会や暑気払いが中止になり、「マイイベント」も中止となりました。かがやきでは、現在部屋を2つに分けて作業を行っています。そのため、相互の部屋の人が一緒に作業をしたり昼食を摂ったりすることはなくなりました。

そんな中、7月に埼玉県の交通安全全まなび隊に依頼し、出前講座を開催しました。密にならないように利用者を3グループに分けて、3日間かけて行いました。場所はかがやきより広い笹目二丁目会館をお借りしました。当日は交通安全の画像を見たり、クイズをしたりしました。クイズでは、標識の意味や違反の罰金額などが問題に出て、正解すると反射ストラップがもらえました。また、利用者の自転車を使って点検の方法も学びました。楽しみながら講座を行うことができました。

もうしばらくコロナ禍は続きそう

ですが、しっかりと対策をして利用者が楽しく参加できる場面を作っていきたいと思えます。「マイイベント」のようなお出かけは難しいかもしれませんが、今年度はそれに代わる余暇を楽しむ企画について、自治会で話し合いを行っています。「私たちが今できること」を中心に取り組んでいきます。

(かがやき 多治比)



グリーングラス

グループホームの多様性

わかくさ会に新しく大地が出来た同じ時期、ささやかに自立生活援助事業所スイートピーが始まりました。

自立生活援助とは、2018年に始まった、主に病院やグループホームから地域に出て1人暮らしを始める方を応援する比較的新しいサービスです。現在については、サテライト型グループホームを卒業した方を対象にサポートを行っています。

実際の支援内容については、週に1回程度お部屋を訪問し、手続きや書類の作成など日常生活で必要となることのサポート、他のサービスとの連絡調整などを行っています。

例えばとある月では：

・1人暮らし開始後の様子の聴き取り。

・新型コロナウイルスのワクチンのクーポンが届いたため、病院への電話のサポートを実施。

・配食サービスの利用について情報提供を行い、担当の方と一緒に

説明を聞き契約についてサポートを実施。

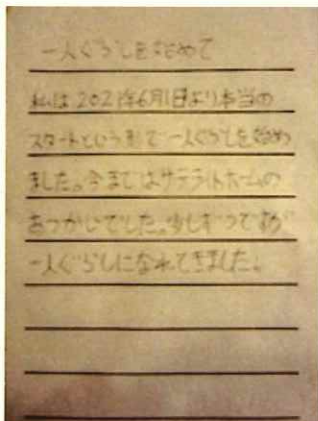
など、1人暮らしを行う上での身近なサポーターとして活動しています。

まだ始まったばかりなうえに、サテライト型を卒業した方への支援なので中々接する機会もないかもしれませんが、ゆくゆくは地域で1人暮らしを始める方の心強い味方となれるよう体制を整えてまいります。

実際にスイートピーを利用しているAさんより、1人暮らしの感想をお聞きしました。

一人暮らしを始めて私は2021年6月1日より本当のスタートという形で一人暮らしを始めました。今まではサテライトホームのあつかいでしたが、少しずつですが一人暮らしになれました。

(グリーングラス 寺内)



わかば

母のために自立を目指す

Mさんのケース

わかばが関わる40代男性・Mさんの支援の取組みを紹介します。先天性の弱視がありながら福祉に つながらないまま大人になったMさん。仕事でつまづき、長らくひきこもり生活を送っていました。一緒に暮らすお母さんの認知症発症をきっかけに福祉につながり、Mさん自身にも支援の手が届くこととなりました。

最初はコミュニケーションソーシャルワーカーが関わり、経済的に困窮していたMさん親子を生活保護につなぐ支援が行われましたが、その後Mさんの支援を引き継ぐ形でわかばの関わりが始まりました。とてもお母さん思いのMさん。ひきこもりの時期を支えてくれたお母さんを今度は自分が支えたいと、再就職の希望を口にしようになり。そこで就労支援センターとも相談しながら就労に向けた道筋を一緒に考え、そのための生活基盤の立て直しを図ることとなりました。

身体障害者手帳の取得を支援し、眼科医の意見も聴きながら福祉的就労や機能訓練の利用を模索。残存視力を活かして仕事も日常生活も楽しみたいというMさんの意向を踏まえ、市外の機能訓練施設利用に向けて準備をすることに。課題の一つがMさんがいないと不安になるお母さんのことでしたが、担当ケアマネジャーや地域包括支援センターの方とも協議し、デイサービスやショートステイ利用により息子と離れて過ごすことに徐々に慣れてもらう作戦を取りました。その後親族からの財産相続、お母さんの入院・長期化の見通しなどの偶然が重なり、経済面とお母さんの不安対応の課題がクリアされたことで、訓練の話が一気に前進。申込を済ませ、今秋には訓練開始の見込みです。今後は訓練の様子をモニタリングしながら、その後の進路について相談していく予定です。

(わかば 猪野)



ひかり

2021 夏

今年も折り返し地点を過ぎ、盛夏を迎えています。

コロナ禍のなか、多くの制約のもとオリンピック・パラリンピックが開かれ、選手もスタップも経験したことの無い大変な挑戦の真最中だと思えますが、私たち一人ひとりも、なかなか先の見えない自粛生活という長距離マラソンのような日々を走り続けています。暑さも加わり、マスク生活も厳しさを増しています。

これまで頑張ってきたけれど、心身の疲労が少しずつ溜まって耐えがなくなったり、どこにも向けられない怒りや悲しみが溢れてしまったり・・・そんな時、誰かと話をし、ちょっと気持ち楽になれたら、という思いで相談者の声に耳を傾けています。日常のなかで感じる不安、やり場のない怒り悲しみなど、逆に嬉しいことがあった時にも、利用者の方々が電話や面談で聞かせて下さる話に共感したり一緒に悩んだり、喜んだ

り、少しでも良くなる方法を考えたりしながら、孤立することのないよう、誰かと繋がれるよう、誰かに伝えてもらうことで少しでも心の荷物を減らして前に進めるよう傍で寄り添い続けて行きたいと思えます。

ワクチン接種も徐々に浸透し、早々に済ませた方もいますが、接種に不安を感じたり、予約手続きや接種のお手伝いが必要な方もいます。お一人おひとりの状況に合わせ、考えやお気持ち、を確認し、主治医と相談してもらいながら、必要な方には手続き支援や接種医療機関への同行等を行っています。必要な方がいらっしやいましたら、お声掛けください。

(ひかり 高野)



**指定特定
相談支援事業所
『大地』**

4月1日より、障害者生活支援センターひかりの事務所内に、計画相談を専門に行う『大地』という相談支援事業所を新たにオープンしました。『わかば』や『ひかり』から異動した相談支援専門員に加え、新たに専門資格を持つ相談員を複数名採用し、障害福祉サービスの調整やサービス等利用計画の作成を行っていきます。

これに伴い、『わかば』や『ひかり』に登録していただいている方で、計画相談が必要な方については、障害福祉サービスの更新のタイミングで『大地』への引き継ぎをお願いしております。

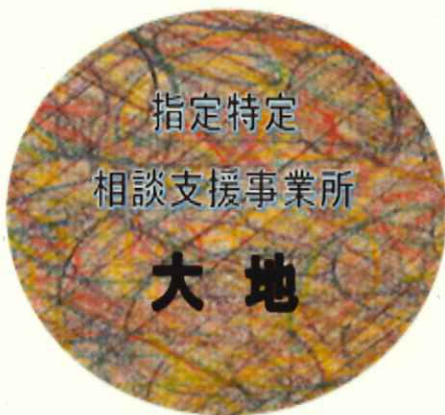
手続きのお手数をお掛けしますが、何卒ご理解とご協力ください。また、よろしくお願いいたします。

『大地』では、戸田市内に限らず、近隣市の方でも、ご希望のある場合には可能な限り、計画相談を行えるよう相談支援専門員の拡充と質の向上を目指していきます。また、委託相談支援事業所や就労支援センター、地域包括支援セン

ターや医療機関など関係機関と連携し、地域で安心して暮らし続けたいという目的での支援体制づくり、地域づくりにも取り組んでいきたいと思っております。

障害福祉サービスに関してのご質問やご希望など、どうぞお気軽にご連絡ください。

(大地 高野)



**戸田市障害者
就労支援センター**

**オンラインでつながる
交流スペース**

『交流スペース』は、働いている方、これから働きたいと思っ

た方、これから働きたいと思っ

た方、これから働きたいと思っ

ムーズに話の輪に入れています。そんなメンバー同士の話の中で、「新型コロナが落ち着いて、集まれるようになったら何がしたいか」の話題となりました。「カフェがやりたい」「クリスマス会などのイベントがやりたい」などの提案とともに「みんなの顔を見て、幸せな気持ちになりたい」と心がほっこりするお話も。画面越しでは伝わらないメンバーの強い絆を感じました。

今後、緊急事態宣言や蔓延防止措置が解除された時のことも検討してまいります。地域の自治会館など、広いスペースを確保し、参加人数の上限を設定、感染症対策を徹底した上で、顔を合わせての交流スペースを開催する予定です。

交流スペースはメンバーにとつて一人ひとりが自分達らしく活動できる大切な場所です。今後、オンラインでの開催もコロナの状況次第では続くことがあると思っております。どのような形でもメンバーの居場所を確保していきたいと思

(就労C 石川)

みなみ

『今年度の取組について』

◆コロナ禍でも

今年度もコロナの影響が続きま
すが新しい生活様式を踏まえ感染
症予防をしながら引き続き支援を
行って行きます。相談者の方もま
だまだコロナの影響はあり特に飲
食店に勤めている方は店舗が閉店
になったり、休業が続いていたり
時短勤務や勤務日数が減るなど大
変な思いをされています。反対に
スーパーやドラッグストアなど
小売店に勤めている方は、エッセ
ンシャルワーカーとし緊急事態宣
言下でもコロナ感染の不安の中、
変わらずに仕事を勤めている方も
います。また、在宅勤務になり職
場とのコミュニケーションが減り
悩まれている方もいます。コロナ
禍でみなさんがそれぞれ辛い思い
や悩みや不安を感じているかと思
いますがみなで乗り越えていき
ましょう。

◆今年度の取組

今年度の取組として、当事者の
サロン活動では対面実施と緊急事
態宣言等を想定したオンライン実
施の2本立てで計画をしています。
当事者の方の『早くみなで会いた
い』『忘年会やカラオケをした
い』という声が続々と届いていま
すが、楽しみはもう少し取ってお
きましょう。

昨年度はコロナの影響で企業実
習の件数は半数以下となりました。
コロナ禍で企業は会社の存続に向
けた対応が求められる中、今年3
月に法定雇用率が0.1%引上げ
られ民間企業で2.3%となつて
います。こうした中で企業実習の
機会を大切にしながら当事者と
企業のマッチングを図りながら企
業実習、さらには雇用へと繋げて
いきたいと思ひます。また、昨年
度は実施できなかった企業向けの
連絡会等の準備を進めていきたい
と思ひます。

(みなみ 酒井)



鈴木所長への 感謝を込めて

本年2月に鈴木所長の突然の計
報を受けました。あまりに突然の
ことで、なかなか現実を受け入れ
られない状況でした。しかし私達
職員だけでなく、利用者もこの現
実を受け入れ、前に進んでいかな
ければいけないという思いから、こ
の機会を踏まえ、自治会の中で話
合う機会をつくりました。人の死
について向き合うことは悲しいこ
とではありますが、大切なことで
もあります。

鈴木所長との思い出について話
をしたところ、農園でじゃがいも
やスイカ作りをしたこと、交流会
でバイオリンを演奏してくれたこ
と、オカリナの演奏をしてくれた
こと、忘年会で手品を披露してく
れたこと、コロナ対策として、自
治会の中で勉強会をしてくれたこ
と。そして、指揮者として活躍さ
れた「ありがとうコンサート」を
思い出す声が多く聞かれました。



そのため、日程を決めてみんな
で鈴木所長を偲ぶ会として「あり
がとうコンサート」のDVD上映会
を開催することになりました。
当日まで、偲ぶ会の自治会を楽
しみにしている話や、鈴木所長の
思い出話をする利用者もいました。
DVD上映会では、鈴木所長との
楽しかった思い出を皆で楽しみな
がら見ることはできました。

ここに謹んで、ご冥福を

お祈り致します。

(かがやき 石野)

表現活動

「感じる」が「表現する」に繋がる

戸田わかくさ会のアー
ト広報紙『ホットキウ
イ・フルーツジュース』
の第7号が完成しまし
た。今号の表紙には、

「感じる」こと 表現すること 生きること」という言葉を載せました。

人間は五感を通じて、さまざまなものに対して「感じる」という体験をします。その体験をするには、必ずしも言語を介在させる必要は無く、具体的な名称を持つ対象がそこに存在することが絶対でもありません。

すなわち、「何か」の色の濃淡や光の明暗が目に入ったり、日本語で意味を持たせることのできない「何か」の音が聞こえたり、「何か」に鼻を近づけてにおいをかいだり、顔面や身体の皮膚を「何か」に接触させて温冷・凹凸・粘性・弾力・摩擦などを知ったり、食べ物でない「何か」の味を舌先で知ったりする。こういった活動の中に、「感じる」という体験が存在するのではないかと思います。

さらに、人間は身体で「感じる」

感覚だけでなく、心で「感じる」感情があり、不安や恐怖、悲しみや楽しさ、快・不快といったものがあります。

そういった「感じる」という体験は、「表現する」という行為に繋がります。「表現する」とはどういう行為か。

それは、外的刺激（感じたこと）に対して、脳が示した何らかの反応のことをいうのかもしれませんが、ここに随意運動だけでなく不随意運動まで含めるかどうかは判断が難しいですが、強調したいのは「表現する」という行為は誰しもが日常的に行っているということなのです。

目的意識を持って「絵を描く」「ものを作る」という創作活動だけが、



「表現する」活動ではありません。私たち職員は、利用者の皆さんの「表現する」行為に気付き、よく見つけることで、そこに流れる時間が少しでもより豊かになるように考えていきたいと思っています。

(わかくさ清水)

予定

◆戸田市障害者就労支援センター『就労相談会』

日付：8月27日（金）

10月22日（金）

12月24日（金）

時間：午後1時～4時

場所：戸田市役所5階会議室

問合せ：障害者就労支援センター

048-471-9333



◆各行事の実施について

新型コロナウイルスの対策により、各事業所の行事の実施について検討しております。開催案内などはホームページで掲載していく予定です。

（編集後記）

新型コロナウイルスのワクチン接種が始まりました。事業所内でも接種した方が増えているようです。少しでもコロナウィルスが収束に向かうことを祈るばかりです。

さて、今年度最初のわかくさの風が発行となりました。各事業所で頑張っていることや元気が出るような情報を多く発信していきたいと思っています。

（松葉瀬）

（法人の運営する事業所）

わかくさ、福祉作業所ゆうゆう、福祉作業所かがやき、グリーングラス、障害者生活支援センターわかば、障害者生活支援センターひかり、障害者就労支援センター、指定特定相談支援事業所大地、障害者就業・生活支援センターみなみ、

（ホームページはこちら）

<http://www.wakakusa-kai.com/>

facebookもやっています



【発行】

社会福祉法人戸田わかくさ会

〒335-0021 戸田市新曽1522-1

TEL 048-432-8198 FAX 048-432-8298